【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年12月2日(2005.12.2)

【公開番号】特開2004-357326(P2004-357326A)
【公開日】平成16年12月16日(2004.12.16)
【年通号数】公開・登録公報2004-049
【出願番号】特願2004-215778(P2004-215778)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｑ　7/36
　Ｈ０４Ｊ　3/06
　Ｈ０４Ｑ　7/38
// Ｈ０４Ｊ　13/00
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｂ　7/26　１０５Ｄ
　Ｈ０４Ｊ　3/06
　Ｈ０４Ｂ　7/26　１０９Ｎ
　Ｈ０４Ｊ　13/00　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成17年9月30日(2005.9.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
Ｎ個の符号群のうち時分割複信（ＴＤＤ）通信システム用基地局の属する一つの符号群を表示する方法であって、
　前記ＴＤＤ通信システム用基地局（４８）から一次同期符号を複数の二次同期符号、すなわち直角位相偏移変調を伴う（$\log_2$ Ｎ）＋１以下の個数の二次同期符号とともに送信する過程
を含み、前記ＴＤＤ通信システム用基地局の前記符号群を前記送信した複数の二次同期符号で表示する方法。
【請求項２】
前記二次同期符号の各々がHadamaradマトリクスの一つの行から導き出したものである請求項１記載の方法。
【請求項３】
前記値Ｎが３２である請求項１記載の方法。
【請求項４】
各々が前記二次同期符号の互いに異なるセットにより特定された複数の符号群に前記３２個の符号群を分けたことをさらに特徴とする請求項３記載の方法。
【請求項５】
前記３２個の符号群を、符号１乃至１６から成る下半分と符号１７乃至３２から成る上半分とに分けた請求項４記載の方法。
【請求項６】
Ｎ個の符号群の中の一つの符号群を有する時分割複信（ＴＤＤ）通信システム用基地局であって、
　前記ＴＤＤ通信システム用基地局から一次同期符号を複数の二次同期符号、すなわち直

角位相偏移変調を伴う（$\log_2$ Ｎ）＋１以下の個数の二次同期符号とともに送信する手段（５８）を含み、前記ＴＤＤ通信システム用基地局の前記符号群を前記送信した複数の二次同期符号で表示するＴＤＤ通信システム用基地局。
【請求項７】
前記二次同期符号の各々がHadamaradマトリクスの一つの行から導き出したものである請求項６記載のＴＤＤ通信システム用基地局。
【請求項８】
前記値Ｎが３２である請求項６記載のＴＤＤ通信システム用基地局。
【請求項９】
各々が前記二次同期符号の互いに異なるセットにより特定された複数の符号群に前記３２個の符号群を分けたことをさらに特徴とする請求項８記載のＴＤＤ通信システム用基地局。
【請求項１０】
前記３２個の符号群を、符号１乃至１６から成る下半分と符号１７乃至３２から成る上半分とに分けた請求項９記載のＴＤＤ通信システム用基地局。
【請求項１１】
時分割複信（ＴＤＤ）通信システム用ユーザ装置において、
Ｎ個の符号群の中の一つの符号群を有するＴＤＤ通信システム用基地局から、一次同期符号を複数の二次同期符号、すなわち直角位相偏移変調を伴う（$\log_2$ Ｎ）＋１以下の個数の二次同期符号とともに受信する手段（７０）
を含み、前記ＴＤＤ通信システム用基地局の前記符号群を前記受信した二次同期符号により表示するＴＤＤ通信システム用ユーザ装置（７０）。
【請求項１２】
前記二次同期符号の各々がHadamaradマトリクスの一つの行から導き出したものである請求項１１記載のＴＤＤ通信システム用ユーザ装置。
【請求項１３】
前記値Ｎが３２である請求項１１記載のＴＤＤ通信システム用ユーザ装置。
【請求項１４】
各々が前記二次同期符号の互いに異なるセットにより特定された複数の符号群に前記３２個の符号群を分けたことをさらに特徴とする請求項１３記載のＴＤＤ通信システム用ユーザ装置。
【請求項１５】
前記３２個の符号群を、符号１乃至１６から成る下半分と符号１７乃至３２から成る上半分とに分けた請求項１４記載のＴＤＤ通信システム用ユーザ装置。